

## 要旨

### 本論文の問い

「薬物依存症」に対する無知や誤解による薬物依存症者への偏見・差別をなくし、薬物依存症者が回復しやすい社会を作るために、本論文で注目したのは薬物乱用防止教育である。これらは薬物使用の「最初の1回」を予防するには多少なりとも効果があるのかもしれないが、実際に薬物問題に苦しんでいる方に対する適切なメッセージではないどころか社会全体に向かって「薬物使用者はダメゼッタイと言われるものに手を出した駄目人間」とレッテルを貼ってしまい結果として差別や偏見を生んでしまっている。また学校で行われている薬物乱用防止教室にも同じようなことがいえる。このことから本研究では薬物乱用防止教室について注目し、「薬物依存症」に対する正しい知識を広め、差別・偏見をなくす方法について明らかにする。

### 調査方法

乱用防止教育に使われているパワーポイントと学習指導要領から改善点を指摘

はじめに 筆者がこのテーマを選んだ理由

筆者がこのテーマを選んだ理由としてある著名人の薬物所持による逮捕報道について触れた

### 第1章 現在の日本国での薬物依存症問題について

1節 そもそも「薬物依存症」ひいては依存症そのものの定義

2節 我が国の薬物問題の歴史

まずは依存症とは何かを定義するとともに、日本国内においての薬物問題（特に覚せい剤）について触れた

### 第2章 海外の薬物依存症対策

1節 海外の薬物依存症対策

海外ではどのような薬物問題に対する対策が行われているのか。「ハームリダクション」に触れながら解説した。

### 第3章 日本の薬物政策

1節 日本の現状

2節 ダメ・ゼッタイ 教育の問題点

多くの日本人が一度は聞いたことがある「ダメ・ゼッタイ」に代表される薬物乱用防止教育の問題点について解説した

### 第4章 薬物乱用防止教育は今後どうなっていけば良いのか

1節 薬物乱用防止教育の改善点

2節 薬物乱用防止教育に付け加えた方が良いこと

どのように薬物乱用防止教育を進めるかを論じた。